

MS Office AutodiscoverまたはOffice 365を使用したMicrosoftの自動検出の設定

内容

[はじめに](#)

[説明](#)

[仮想アプライアンスでの自動検出の使用](#)

[Roamingクライアントでの自動検出の使用](#)

はじめに

このドキュメントでは、特定のMicrosoftアプリケーションの適切な機能に対する自動検出ドメインの使用について説明します。

説明

Microsoft Autodiscoverを使用する場合、通常、AutodiscoverドメインのDNSレコードはMicrosoftのサーバに対するCNAMEレコードです。自動検出機能を中断しないようにするには、これらのドメインがネットワーク上でブロックされていないか、グローバル許可リストに追加することで許可されていることを確認します。

- outlook.com (Webメールだが変更可能)
- autodiscover.outlook.com.glb dns.microsoft.com (ソフトウェア/テクノロジー、ビジネスサービス、Webメール、ただし変更可能)

また、これらのドメインをグローバル許可リストに追加しなければならない場合もあります。

- outlook.office.com
- outlook.office365.com
- smtp.office365.com

Microsoftでは多数のサブドメインが使用されているため(<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-365/enterprise/urls-and-ip-address-ranges?view=o365-worldwide>)、位置情報を取得するために、ドメインoutlook.comを追加することをお勧めします。

Office 365ハイブリッドモードを使用している場合、outlook.comは内部ドメインの一覧に含まれている必要があります。また、テクノロジーまたはメールカテゴリをブロックしている場合は、許可の一覧にも含まれている必要があります。Umbrellaへの転送をアクティブ化する際にSMTPエラーが続く場合は、リレーサーバが正しいコネクタからルーティングされていることを確認します。

仮想アプライアンスでの自動検出の使用

自動検出に失敗した場合は、自動検出アドレスを内部ドメインリストに追加する必要があります。この方法については、[こちら](#)のガイドを参照してください。

Roamingクライアントでの自動検出の使用

Roaming Clientで自動検出を使用する場合は、[ここ](#)で説明されているように、自動検出ドメインが内部ドメインリストに追加されていることを確認してください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。